

§ 5 will・wouldの用法

will は未来形を作る助動詞として多く用いられるが、その他にも色々な意味がある。単純未来や意志未来を表すほか、**will not** で「強い否定の意志（通称・強情の **will** とも呼ばれる）」を表したり、その他にも「習性」や、過去形の **would** を用いて「過去の習慣」を表したりする。概念を一言では特定しがたいが、「未来」「意志」「習性」「過去の習慣」と覚えておこう。

will の意味 未来 意志未来、意志
 強い拒絶 を否定文にしたもの 習性
 would で用いて、過去の習慣的な動作
 を **will** の特別用法と呼ぶこともある

一般的な **will** の用法と例文

未来 It will be raining soon. (まもなく雨が降るだろう。)

意志 I will definitely come to your party. (君のパーティーに必ず行くよ。)

will の特別用法とその例文

意志をともなった強い拒絶 「どうしても～しない、～しようとしなない」

- (1) This door will not open.
(このドアはどうしても開かない、開こうとしない)
- (2) That door would not open.
(そのドアはどうしても開かなかった)
- (3) She wouldn't say "I'm sorry."
(彼女はどうしてもごめんなさいと言おうとしなかった)

習性、その物が生来持っている性質 「～するものだ」

- (1) Boys will be naughty.
(男の子は本来、やんちゃなものだ)
- (2) A drowning man will catch a straw.
(溺れている人は、藁でもつかむものだ (溺れる者、藁をもつかむ < 諺 >)

過去の習慣的な動作 「昔は(かつては)よく～したものだ」

- (1) I would often go swimming in the river.
(かつてはよく、川に泳ぎに行ったものだ)

< その他の文例 >

次の例では、初めの **would** は仮定法で、次の **would** は過去の習慣を表している。

If you went to his office, you **would** see it on his desk. He **would** sometimes pull the black book out and write down something in it.

(もし彼の会社に行けば、机の上に黒い帳簿があるのが見えるだろう。彼はときどきそれを取り出しては何かを書き付けていた。)

§ 6 shall・shouldの用法

shall とその過去形である should は、意味や用途が異なる。

shall のほうは、「未来」「申し出・勧誘」「話者の意志」を表すとされ、should のほうは、「～すべきだ(義務・必要)」「～はずだ(当然・推量)」を表すとされている。(この should は、もう一つの助動詞 ought to と同じ意味で使われる。)

shall の概念は「意志未来」に近く、should の概念は「必然」に近い。例文とその和訳のしかたで、意味を把握するとよい。

shall の用法と例文

未来

We shall be back by 6. (この shall は will でもよい)

申し出・勧誘 (自分 達 が何かを「しましょうか」と持ちかける表現)

Shall I open the window?

Shall we dance?

Shall we ~ ? は、Let's ~ とほぼ同じ意味。

話者の意志 2人称、3人称が主語の時は、話者の意志を表す。

He shall go there. (私は彼をそこへ行かせよう)

日本の英文法では、こういった文は「私が～させよう」と訳すことから「話者の意志」を表すと教えているが、根本的な shall の概念は「神の意志」である。「神が彼をそこに行かせることになるだろう」「彼はそこへ行くことになるだろう」が直訳。後に、この発話をした者の意思を表す、と説明されるようになった。英語はキリスト教の影響を受けているのである。

should の用法と例文 should = ought to

義務・必要「～すべきだ」

You should study mathematics every day.

以下の語句はみな助動詞だが、一般に、may as well (～すべきだ)、should(～すべきだ)、had better(～したほうがいい)、must(～しなければならない)の順に、相手に勧める強さが大きくなると言われている。

当然・推量「当然～のはずだ」

Since he was born in 1956, he should be over 50.

(彼は 1956 年生まれだから、50 歳を越しているはずだ)

should の意味は「べきだ」「はずだ」と覚えておくとよい。

§ 7 need (to) ・ dare (to) ・ ought to ・ used to の用法

これまでに説明した助動詞の他にも、**need, dare, ought to, used to**などの助動詞がある。それらをひとつずつ見ていこう。

need (to)

「～する必要がある」という意味を表す。

動詞の need と助動詞の need がある。前者は to 不定詞を伴って need to ~ で「～する必要がある」となる。want to ~ 「～したい」という表現と同様に覚えておこう。助動詞の need は、一般には否定文、疑問文だけに用いる。

- < 動詞 > You need to come here at once. (at once : すぐに)
(君はすぐここに来る必要がある。)
- < 助動詞 > × You need come here at once. (肯定文では使わないのが普通)
- < 助動詞 > You needn't come here at once. (否定文なので OK)
- < 助動詞 > Need we study so hard? (OK だが、次の Do we need ~ ? のほうが自然。)
(我々は、そんなに一生懸命勉強する必要があるのか。)
- < 動詞 > Do we need to study so hard?

< 参考 > 疑問文への答え方

Need you go to the bank?

Yes, I need to. / Yes, I must (have to).

No, I needn't. / No, I don't need to.

dare (to)

「あえて～する」「～する勇気がある」の意味を表す。

need 同様、疑問文と否定文では助動詞として用いられるので後ろに原形がくるが、肯定文では一般動詞として用いるために **to** 不定詞がくる。否定形は **dare not** ~ である。

The teacher is very angry.

We don't dare to speak to him. (=We dare not speak to him.)

(先生はとても怒っているから、我々は、あえて先生に話しかけることはするまい。)

Do you dare to ~ が「あえてわざわざ～する勇気があるのか」という意味を持つことから、Do you have the courage to ~ に書き換えられることもある。

Do you dare to ask your father to let you study abroad?

= Do you have the courage to ask your father to let you study abroad?

(君は、お父さんに海外留学させてくれと頼む勇気があるのか) courage 勇気

How dare SV ? で、「よくも S は V できるね」という慣用表現がある。

How dare you **say** such a thing to me!

(よくも私にそんなことが言えるね。)

ought to (=should)

shouldと同じ意味、用法なので「～すべきだ」「～はずだ」の意味を表す。

否定形は **ought not to (=oughtn't to)**。語順に注意。

(1)義務・必要 「～すべきだ」

You **ought to** see a doctor at once. (すぐに医者に見てもらうべきだ。)

(2)推量・当然 「～はずだ」

She **ought to** be at the station by now. (彼女はもう駅に着いているはずだ。)

used to

今はしていないけれども以前は「よく～したものだ」という過去の習慣的な行為や、「(今はもうないけれど)以前は～であった」という過去の状態を表す。

「かつてはよく～した」という動作や行為に関する表現の時は、used to～の代わりに would～を使うほうが、より自然である。これに対し、「かつて～があった、存在していた」や、「昔は～のような状態だった」という状態に関する表現の時は、used toのみを用い、wouldはまず使われない。

(1)過去の習慣・反復的な行為 「昔は～したものだ」

I often **used to** climb up trees when I was young.
= I **would** often used to climb up trees when I was young.

(2)過去の状態 「かつては～したものだ、昔は～であった」

There **used to** be a restaurant here.
(かつてここにレストランがあった)

There was a restaurant.と There used to be a restaurant.は、ともに「ここにレストランがあった」という意味だが、used to be は「今はもう、ない」という意味を含む。

2 完了形の助動詞

§ 1 助動詞 + have + 過去分詞

助動詞のあとに完了形 **have + 過去分詞** が続くと、次のような意味を表す。はじめの三つは過去の推量や推定を表す。後の四つは過去において実行されなかった行為に対する非難や後悔を表している。まず肯定文の意味を覚え、次に、**not** があればそれを否定的に和訳するようにすれば、覚えやすい。

形	意味
may (not) + have + 過去分詞	「～した(～しなかった)かもしれない」
must + have + 過去分詞	「～したにちがいない」
cannot + have + 過去分詞 couldn't + have + 過去分詞	「～したはずがない」
should + have + 過去分詞 (should = ought to)	「～するべきだった」(のにしなかった)
shouldn't + have + 過去分詞 ought not to + have + 過去分詞	「～するべきでなかった」(のにした)
need not + have + 過去分詞	「～する必要はなかったのに」(した)
had better (not) + have + 過去分詞	「～した(～しなかった)ほうがよかったのに」

< 例文 >

I may have met you somewhere before, but I can't remember your name.

私はどこかで以前あなたに会ったかも知れないが、名前が思い出せません。

I must have left my cellular phone in the bus.

私は携帯電話をバスの中に置き忘れたに違いない。

She **cannot have done** her homework by herself.

彼女が一人で宿題をやったはずはない。

You **should have said** it earlier.

君はもっと早くそれを言うべきだったのに。

I **shouldn't have said** those words to my father.

父にあんなことを言うべきじゃなかったよ。

You **needn't have brought** your umbrella.

君は傘を持ってくる必要はなかったのに。

You **had better have consulted** a doctor.

君は医者に診てもらったほうがよかったのに。

§ 2 助動詞を含む慣用表現

cannot ~ too ...

「いくら～してもしすぎることはない」

You cannot be too careful when you pour dangerous chemicals from a bottle.

(ビンから危険な化学薬品を注ぐときにはいくら注意してもしすぎるということはない。)

cannot but ~ ・ cannot help[stop] ~ing

「～せざるを得ない」 **cannot but** のほうは文語的である。

I couldn't but laugh at them.=I couldn't help laughing at them.

(私は彼らのことを笑わざるをえなかった。)

may well ~

「～のはもつともだ」

She may well get angry with him.

(彼女が彼のことを怒るのはもつともだ。)

may as well ~

「～したほうがいいだろう」「～するのもいいだろう」

You may as well see a doctor. (医者に見せたほうがいいだろう。)

「医師に見せないよりは見せたほうがいいだろう」という程度の軽い勧め。

「是非～したほうがいいだろう」の **had better** よりも、もっと軽いニュアンス。

might[may] as well ~ as ...

「...するくらいなら～したほうがまだ」

We might as well walk home **as** try to catch a taxi here. (玉川大)

(ここでタクシーを拾おうとするくらいなら歩いて家に帰ったほうがまだ。)